

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(全クラス)
使用教科書	帝国書院 明解『歴史総合』				
副教材等	帝国書院 明解『歴史総合』ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

○グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

～卒業までにこのような資質・能力を育みます～

- ① 主体的に課題を見つける感覚を養い、自ら学び、解決策を創造する資質・能力と産業社会で求められる倫理観と規範意識を育成します。
- ② 生涯にわたって学び続ける意欲を養い、新たな産業に柔軟に対応する自己指導力を育成します。
- ③ 国際的視野に立って考える姿勢を養い、地域の発展と豊かな暮らしに貢献するために必要な思考力、発想力を育成します。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～

- ① 共通教科の学びを強化して、基礎学力の定着を図ります。
- ② 工業高校で学ぶ基本的な知識や技術を習得し、課題研究や新しいIT技術について、主体的な学び方と実践する場を設定します。
- ③ 将来、国内・国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力や英語力の向上を図り、多様な価値観を持つ仲間との協働的学習を行います。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 教科書にでている基本的な用語の理解を重視し、基本的な歴史的知識の習得を目指します。
- ② 基本的な知識を踏まえたうえで、現代の世界と日本にどのようなつながっているのかを歴史的に考察できる力が身につくことを目指します。
- ③ 諸資料に基づき地理的条件と関連付けながら、現代の諸課題を歴史的観点から考察する力が身につくことを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界と日本の歴史の大きな枠組みと展開される諸事象について、地理的条件と関係付けながら理解するとともに、諸資料から世界と日本の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	世界と日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	世界と日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次とおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	以上の観点を踏まえ、 ・ 小テスト ・ 定期考査 ・ 課題の内容、提出状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 小テスト ・ 定期考査 ・ 授業の発言、発表や討論への取組の観察 ・ 課題の内容、提出状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ 課題の内容、提出状況 などから、評価します。

6. 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	1部 1章 2章	3	○歴史の扉	・ 歴史と日常生活とのつながりについて学ぶ。 ・ 歴史資料の読み解きについて学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
	2部 序章	3	○近代化への問い	・ 19世紀の日本と世界の歴史を概観し学習する。		
5	2章 1節～3節	3	○欧米諸国における近代化	・ ヨーロッパの市民革命について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組
	4・5節 定期考査	4	○欧米諸国における近代化	・ 産業革命とイギリスの繁栄について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
6	3章 1節～4節	4	○近代化の進展と国民国家形成	・ 近代ヨーロッパの転換点について学ぶ。 ・ イタリア・ドイツの統一について学ぶ。 ・ アメリカの拡大について学ぶ。 ・ 帝国主義について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組
	4章 1・2節	2	○アジア諸国の動揺と日本の開国	・ 西アジアの変化について学ぶ。 ・ 南・東南アジアの植民地化について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
7	1章 2節	3	○アジア諸国の動揺と日本の開国	・ 日本の開国から江戸幕府の滅亡までの経緯について学ぶ。	a b c	課題・小テスト 授業の取組 ワークシート
	1章 3節 定期考査	5	○近代化が進む日本と東アジア	・ 新政府による近代化について学ぶ。 ・ 日清・日露戦争と周辺の国に与えた影響について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
8 ・ 9	3部 序章 1章	6	○国際秩序の変化や大衆化への問い・第一次世界大戦と日本の対応	・ 国際秩序の変化や大衆化について考察する。 ・ 第一次世界大戦と日本の対応について学ぶ。	a b c	課題・小テスト 授業の取組
10	2章 定期考査	7	○国際協調と大衆社会の広がり	・ 第一次世界大戦後のヨーロッパ・アジア・アメリカの状況について学ぶ。	a b c	課題・小テスト 授業の取組
11	3章 1・2節	2	○日本の行方と第二次世界大戦	・ 世界恐慌の影響とファシズムの台頭について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組
	3章 3・4節	3	○日本の行方と第二次世界大戦	・ 満州事変と日中戦争の始まりについて学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
	3章 5・6・7節	3	○日本の行方と第二次世界大戦	・ 第二次世界大戦の展開と終結について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組
12	4章 1・2・3・4節	4	○再出発する世界と日本	・ 第二次世界大戦後の国際秩序、世界情勢、占領下の日本の改革について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組
	4部 序章 定期考査	3	○グローバル化への問い	・ グローバル化について考察する。	a b c	課題 授業の取組
1	1章 1・2節	3	○冷戦で揺れる世界と日本	・ アメリカ・ソ連の緊張と緩和について学ぶ。 ・ 日本の復興について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
	1章 3・4節	2	○冷戦で揺れる世界と日本	・ 第三勢力の形成について学ぶ。 ・ パレスチナ問題について学ぶ。		
	2章 1・2節	2	○多極化する世界	・ 揺らぐアメリカと先進各国の変化について学ぶ。 ・ 「経済大国」日本の模索について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
2 ・ 3	2章 3・4節	2	○多極化する世界	・ 経済発展に取り組むアジア・南米諸国について学ぶ。 ・ イスラーム復興と冷戦への影響について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート
	3章 1・2節	2	○グローバル化のなかの世界と日本	・ 冷戦の終結と世界への影響について学ぶ。		
	2章 3・4・5節 定期考査	4	○グローバル化のなかの世界と日本	・ 超大国アメリカと中東情勢について学ぶ。 ・ 国際環境の変化と日本について学ぶ。 ・ グローバル化による国際社会の変容について学ぶ。	a b c	課題 授業の取組 ワークシート

計 70 時間(50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 定期考査ごとにノート・ワークの提出があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

『歴史総合』は主に世界と日本の近現代史なので、中学校で習ったことを思い出しながら、現在の世界と日本の情勢にどうつながっているのか、現在の国際社会に関心を持ち、その行先を見つめ、考える態度を生徒の皆さんには持ってほしいと思います。